

「恵みによって義とされる」

～私たちに与えられた神様の“アメイジング・グレイス”～

「しかし今は、新しい救いの道が示された。それは、旧約聖書で教えられていたところである。律法を守るのではなく、イエス・キリストを信じることによって救われるという道であって、信じる人はだれでも救われるのである。そこには差別は全く無い。」

ローマ人への手紙3章21・22節 [現代訳]

私たちが耳にするニュースの中には何ともむごくひどい事件があつて、日本も腐敗してきていると嘆くことがあります。しかし逆に、私たちの身の回りを見ると、一生懸命に他者のことを思いながら助け合つて、支え合っている素晴らしい人々の心を見て、日本人も中々やるなあと感心することもあります。そんな日本に暮らす中で、一牧師として、イエス様の救いをどのようにお伝えして行けば良いのか？と悩み考えることがあります。オウム真理教の事件以降、今では中東などの過激な宗教も見つて、宗教というのは恐ろしいと感じている人々も多し、どのようにして教会の使命を果たして行けばよいのでしょうか？

聖書が教える最も大きなテーマの一つは、「“罪”というものからの救い」です。最近時々紹介させていただいている新しい聖書では、「“罪”」ということばを、「“過ち”」ということばに置き換えてもっと身近なものとして表現していますが、たとえどんな表現であったとしても、聖書が教えるのは、「人間はどうしようもない、そのままでは決して救われない“罪”・“過ち”という世界の中に閉じ込められた状態であり、そこから救われなければならないということ。そして、その救いを与えることのできるお方は、イエス・キリスト様だけである」ということです。しかし、私たちが「“罪”の奴隷状態にある絶望的で、救いようもない存在である」ということを自覚することは容易なことではありません。しかし、私たちは神様の憐れみによってその世界を教えてください、救い出されたということを思う時、その恵みの大きさ、“アメイジング・グレイス”に圧倒させられます。

あなたにとっての“アメイジング・グレイス”は何でしょうか？そして、今もその恵みを味わい続けているのでしょうか？私たちは鈍く、感謝の足りない者ですから、その神様からの恵みを簡単に当たり前のように感じてしまう恐れがあります。

齋藤諒君から教会宛にお手紙が届きました。以前にも大川先生を通してご紹介いたしました、交通事故で脊髄を痛めて立ち上がれない体にさせられた甲子園を目指していた高校球児がイエス様との出会いを通して変えられて、憎しみに満ちていた心が赦しの心に、自分の人生を呪っていた心が新しい使命と希望に満ちた心へと変えられたというお証しをお送りいただきました。生きておられる神である主が彼を新しく生まれ変わらせて下さいました。だれでも、ただ主を信じるだけで救われて新しい希望に溢れるようになるのです！